

喜望

1979年1月第47号(毎月1回1日発行)

発行所 喜望の家

〒557 大阪市西成区萩之茶屋 2-8-18

電話(06)632-1310

郵便振替 大阪 95205

編集兼
発行人 重野信之

定価 1部25円1年分(〒共)900円



< 目 次 >

- ◇ 人間関係の回復が決め手 / 本村汎教授講演(2)
- ◇ ヨーロッパ紀行 / 嵯峨 明(4)
- ◇ シベリヤ抑留記 / 蟹江文雄 (7)
- ◇ このごろ思うこと / 柏木大観 (8)
- ◇ 詩・短歌・俳句 / 萩原重信, 駒サブロウ, 棚橋京子, 石原幹広10
- ◇ 釜ヶ崎通信 / 重野信之 11



◎ 笑い

神さまが人間だけにあたえてくださったものに、笑い、があります。せつかくくださったものです。大いに笑いを使いたいものです。わたしもときどき腹話術をして笑わせているので、「あっ、ノンちゃんのおっちゃんや」と、道で声をかけられることしばしばです。

「おかあちゃん、洋服はお金出して買んでもいいよ」

「どうするの」

「笑っていたらいいの」

「なぜ」

「だって、笑うかどには福(服)きたるといふもの」

夕刊を頭の上に乗せて、歌をうたいながら持ってきました。夕刊

が落ちそうです。おかあさんは夕食のしたくで大忙しです。

「あっ、落ちる、落ちる。おかあちゃん夕刊」

と、頭を差し産しました。

「ちゃんと手で持ってください」としかるおかあさん。

「じょうず、じょうず」

と、自分も頭を出して受け取るおかあさん。この違い。両親もこの時は幼児になること。いつまでもほしいうのが童心です。

◎ 協友会のクリスマス会

釜ヶ崎では次の七つのキリスト教団体が協友会をつくり、社会福祉活動をしています。

暁光会西成支部

日本福音ルーテル教会

日本キリスト教団

愛徳姉妹会、

フランシスコ会

守護の天使修道会

釜ヶ崎地域問題研究会

その、協友会のクリスマス会が

一月十七日(日)午後五時、ふるさとの家で約五十人が参加して開催されました。第一部は礼拝、

第二部が祝会でした。わたしたちは、現実の問題からお互いの協力を必要とし、エキューニカルな活動をしています。これはめぐみです。それほど低抗もなく、わたしたちの活動が釜ヶ崎の労働者に受け入れられているのも感謝です。そして、わたしたちがこうして活動できるのも、全世界の、まだお目にかかったことのない人たちを含めて、みなさんのご支援があつてこそ、と心から感謝をささげました。

主がわたしたちをそのまま受け入れてくださったのであるから、わたしたちもすべての隣人を受け入れなければ、とつくづく思いました。とても祝福に満たされたクリスマス会でした。

◎三公園閉鎖される

いわゆる釜ヶ崎には、花園公園、

仏現寺公園、海道公園、三角公園の四つの公園があります。大阪市公園局は二月二日、三角公園を除いた三つの公園を閉鎖しました。この三つの公園は、これまでも、整備工事を理由に、周囲に金網を張りめぐらし、長い間放置されていたのを、九月一日になってやっと開放されたばかりでした。

釜ヶ崎は、冬場になると仕事が少ないので、ぐっと人口がふくれあがります。そのため、寒風吹きすさぶ道路で青カン(野宿)をし、行路病死する労働者が多くなります。わたしが為政者だったら、せめて公園を開放して利用してもらい、お正月には楽しい催しなどをするだろうと思うのですが、理由も明らかにしないまま、こうした措置をすることには、悲しみどころか怒りを覚えてしまいます。

◎ 越冬はじまる

釜ヶ崎では昨年に引き続き、釜ヶ崎日雇労働組合を中心に「第九

いわる釜ヶ崎には、花園公園、

回釜ヶ崎越冬闘争実行委員会」を組織し、一月二十五日から越冬活動がはじまりました。二月二十八日まで行われます。今年のスローガンは次の四点です。

一、釜ヶ崎差別治安弾圧をうちやぶれ

二、日雇労働者使用すて「行路病死」を許さんぞ

三、仕事よこせ、病気の仲間を入院させろ

四、政治反動と戦争への道をうちやぶれ

わたしたち協友会も、関西キリスト教都市産業問題協議会と協力して「キリスト教釜ヶ崎越冬委員会」を組織し、次のように労働者の越冬支援活動を行います。

毎朝九時、午後一時、午後七時の三回、市民館前で炊き出しを行います。昨年度は一日平均一九五人がこれを利用しました。食事の内容は、からだの弱っている人を配慮し「ぞうすい」ですが、みな

さんのカンパによっては栄養を濃くすることができます。また、炊き出しの準備にボランティアが必要ですよ。

〈夜間パトロール〉

毎夜午後一時からチームを組んで釜ヶ崎一帯をパトロールします。昨年度は青カン者は一日平均一四四人でした。スープ、救急箱、衣類などを持ち、リヤカーを引いて回ります。必要な人には救急車を呼び、応急処置、リヤカーで社会医療センター軒下に敷いた布団に保護したりします。夜間パトロールにはどうしても人材が必要ですよ。希望の家に無料で宿泊も出来ます。また、布団、オーバーなどをお送りください。

〈医療券・病院訪問〉

釜ヶ崎の労働者は保険証や金がないだけでなく、汚れているといつて受診を拒否される状況にあります。医療券は、大阪社会医療センターの好意で、越冬期間中越冬実が発行すれば「有るとききの催促

なし」で受診できます。その医療券の発行とつきそい、また入院患者の訪問に人材が必要です。

いま、希望の家には全国から寄せられた衣類が山積みされています。これを整理して、適時バザーや夜間パトロールに出さなければなりません。この整理にボランティアが必要ですよ。

このように、わたしたちは、死者を出すな、生きて春を迎えよう、を合言葉に越冬活動をはじめていきます。近くの人はボランティアとして、遠くの人はカンパの支援をお願いします。

カトリック教会提供、読売テレビの標記番組で、協友会の活動が次のように全国に放映されます。

大阪 1月28日(日)午前6時
15分/30分/(再) 2月
2日(土)午前8時45分
7時

◎ 心のともしび

東京 1月27日(土)午前8時
25分/8時40分/(再)
1月28日(日)午前6時
15分/6時30分

◎ 今月も次の方がたから経済協力をいただきました(敬称略)

西尾美津江 国本美子 前田ケイ
杉江富三 塩原久 畑中つね 森田ムメ 平安綾子 徳永治通 古川富也 稲葉マサ 高沢撫津子 永吉秀夫 河田絵 河田馨 高橋千夏 岸井敏 本田良寛 那須靖雄 京都三教会合同婦人会 折尾嘉子 川村一郎 中川敏男 菊田松雨 久田博美 梶原富士子 近藤直美 森田七三郎 塩野和夫 坪山孝 大内あい 田代せつ 棚橋京子 ウイルウエーバ 青山四郎 牧野寿美 小泉真 新美保三 本望とい 佐々木花子 藤井幸子 林銀次郎 後藤正明 犬飼稔 大西文子 木村太津美 樋口功 田中貢 小島信子 岡本ソズ子 橋本照子 杉山則子 (以下次号)

第47号

喜望

1979. 1. 1 (12)